



# クリーンレイク諏訪 諏訪湖だより

No.48  
10月

2019/令和元年



## 今月のトピックス

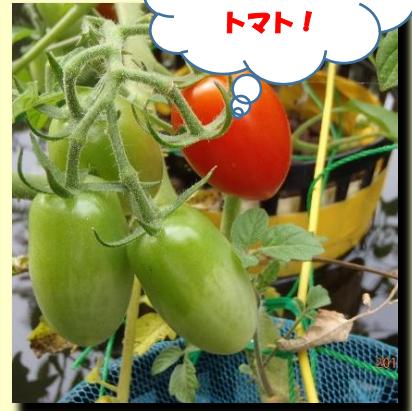
### 水耕栽培、昨年に続き成功でした！



「諏訪湖だより44号」で紹介しましたが、下水処理水を用いた水耕栽培を実施しています。

下水処理水には窒素やりんなどが含まれており、肥料を与えなくても植物が大きく育ちます。昨年同様マリーゴールドが咲き乱れ、甘いミニトマトが多く収穫できました。

さらに、今年初めて育てた桃太郎トマト（中玉）もやや小さいながら実を付け、また、約20cmのゴーヤも育ちました。



下水処理水の農業分野への活用もできる可能性があることがわかりました。

ただ、トマトやゴーヤは茎の伸び方が遅く、土壌での栽培の方が優れているように思われ、今後、下水処理水を用いた土壌での栽培も試してみたいと考えています。

また、マリーゴールドは水耕栽培で順調に育つことがわかりましたので、親水用水路（ビーナス水路）にも拡大していき、桜、紅葉に続く名物にしていきたいですね。



## 処理場見学もグローバル化の波がきていました

近年、多くの外国の方々が日本を訪れるようになりました。

諏訪湖流域下水道にも、数年前から中国の小学生の処理場見学が増えています。中国でも環境への関心が高まり、日本を訪問する際に下水道施設を見学するようにしているようです。



下水道は川や海の水質汚濁防止に大きな効果があり、特に人口の多い大都市でより大きな効果を発揮します。大きな発展を遂げている東南アジアやアフリカにも広がり、飲用水として利用している川の浄化につなげていってほしいと思います。

日本の優れた下水道の技術が世界中に広がり、地球規模で水質浄化に貢献できることを期待しています。